# 人生ハンド仏句

第１６９号
Ｈ．２８．４．１
（毎月１日発行）

## 常住此説法

（常に此に住して法を説く）

住職　谷川寛俊

毎月一日の夕方、お仕事の帰りに月々のお守り様（霊神符月守り）を受けに必ずお寺へお参りに来られる方がいます。もう３０年近くになると思います。一人暮らしで今年５８歳になるご婦人です。２０代後半に夫に死別され、幼い姉妹を立派に育て、長年身をを酷使して働き続けられています。当時、国民年金を払うことすら出来ず、まして蓄えも無く、一生懸命に働かなければ生活していけません。就職難のご時世で、これといった資格も無く、自分に適した職も見つからず、一層のこと幼子と共に死んだ方がどんなに楽か・・・という恐ろしい考えが頭をよぎったことも数えきれません。自暴自棄に陥っていました。そんな苦しい時期に私の心の支えとなっていたものが「南無妙法蓮華経」のお題目でした。すがるような気持ちで仏壇の前に座ると、不思議と気持ちが落ちつきました。そしてこう思うのです。「仏様は必ず見守って下さっているはず」と。自然とそう思えました。そして冷静さを保つことが出来ました。今思えば見守られていたのかもしれません。

そんな生活を送っていた最中、失業保険の切れる直前のことです。自分に適した仕事の話を頂き、早速面接を受けました。幸いにも就職することが出来たのですが、しかし仕事が覚えられずに慣れない、若い先輩からいじめられる事もあり、もう耐えるのも限界でした。或る日、今日こそは辞めようと決意した朝、いつものようにお仏壇の前に座ってお題目「南無妙法蓮華経」を唱えていると、どこからともなく「辛抱なくして道は開かず」という声がしたというのです。今思えばきっと主人からの励ましの声だったのではないかと思えてなりません。「あぁ、いつも見守ってくれているんだな・・・ありがとう。あの世で再会しても顔向け出来るように、もう少し頑張ってみる」と気持ちを切り替えて、辞表を出す気持ちを断ち切りました。それからというもの、多少怒られようが失敗しようが「仏様や主人が見守ってくれている。こんな事で弱音を吐いてどうする。自分に辛く当たるのは、私を一人前に育ててくれていることなのだ」と、感謝の気持ちが持てるようになりました。そして気持ちを奮い立たせて一生懸命汗水垂らして頑張る日々を過ごしました。すると職場の皆の振る舞いが変わってきたそうです。「本当に有り難い事です」と、当時を振り返って笑顔を見せてくれます。

私達も同じです。受け止め方一つで、周囲の見え方が変わるものです。これも日々のお題目信仰のお陰であろうと思います。つくづく思うのは「仏様は常に私達を見守り、導いて下さっている」という事です。様々な悩みや困難に遭うたびに、多くのことを学ばせてもらうものなのではないでしょうか。

「見聞触知（けんもんそくち）皆近菩提（みなぼだいにちかづく）」・・見るもの、聞くもの、触れるもの、常に何かを教えて頂いているのです。全てこの世は仏様の世界なのです。

そしてお釈迦様は次のように仰っておられます。「私はいつもそこにいて、教えを説いていますよ（常住此説法（じょうじゅうしせつぼう））」と。

南無妙法蓮華経。

「人生ハンド仏句」
と打ち込んで頂ければ、ホームページにつながります。

編集・発行
玉蓮山　真　成　寺
編　集　部　谷川久仁子
TEL・FAX　0765-22-2268
携帯　080-3744-2523
こちらの番号でもお寺につながります。